

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291700076		
法人名	社会福祉法人ユウカリ優都会		
事業所名	グループホーム ユーカリ優都びあ		
所在地	千葉県佐倉市青菅1023-6		
自己評価作成日	平成28年12月4日	評価結果市町村受理日	平成29年4月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Tod.do">http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Tod.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成28年12月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の活動予定をあまり決めず、利用者の希望を優先している</li> <li>・施設の目の前にケアガーデンを有し、恵まれた環境にある</li> <li>・ケアガーデンで育てた野菜を収穫し、召し上がる機会がある。</li> <li>・ケアガーデンの花を花瓶に差し替え、リビングで育てている。</li> <li>・学童保育を併設しており、お子さんとの交流が日常的に行える</li> <li>・全室南向きの個室で、家具の持ち込みも可能</li> <li>・入浴に準天然光明石温泉を採用し、温浴効果を高めている</li> <li>・リビングは約5メートルの高さから採光を採り入れ、明るい雰囲気。床暖房を装備し、真冬でも暖か</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ゆったりとくつろげる広いリビング、目の前には多目的なケアガーデン、全面南向きの居室、学童保育併設で毎日子どもたちと交流できるなど恵まれた環境のホームである。センター方式「心身の情報」シートに短期目標・サービス内容と評価や気付きを記入できるよう様式を工夫し、入居者の何気ない言葉や心身のわずかな変化などをその都度全職員が記入し思いや意向を把握するようにして「その時のその人らしさを大切に」したケアプラン作成に繋げ共有している。今年度は特に外に行こうとの行動目標を立て、一人ひとりの入居者の残存機能の維持向上をプランに入れ、個別の自立支援にチームワーク良く取り組んでいる。</p>
---

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+ ) + (Enter+ )です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示したり、職員ネームプレートに差し込んでいる。職員入職時に施設理念を読み合わせし、利用者に対する姿勢を確認している。	理念を職員ネームプレートに差し込み常に意識出来るようにするとともに、毎月の会議時に理念と入居者に対する介護方針の読み合わせを行い、理念の実践について振返るようにしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会に毎年参加している。ガーデン内や近隣を散歩している方とは挨拶を交わすよう心掛けている。近隣中学校の社会科学学習を受け入れ、認知症に対する理解を推進している。	地域社協主催の敬老会に17名の入居者が参加し、近隣の高齢者の方々と親交している。車椅子清掃・傾聴・体操や使用済みタオルの提供など多くのボランティアを受け入れている。中学生の職場体験を受け入れたりボランティアがギター演奏に毎月来てくれたり、単独外出者を近隣の方が連絡してくれるなど地域とのつき合いの輪が広がってきている。併設の学童保育の子どもたちと日常的に触れ合えることが大きな特徴である。	ケアガーデンやアニマルセラピーを活用して近隣の福祉施設の方々と交流機会を増やすことも検討しているとのこと、更に地域との交流を広げていくことが期待される。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	傾聴ボランティアの受け入れをしている。見学希望には随時対応をしている。特に学生の論文対象となる事が多く、複合施設の運営の実態や認知症の方と学童の日常的な関わりを伝えている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間開催スケジュールをご家族にお知らせし、毎月の請求書送付と合わせ議事録と次回開催のお知らせを送っている。地域包括支援センター、地区社会福祉協議会からメンバーが参加し、施設活動報告、意見交換を行っている。	年間開催予定を事前にお知らせし、また議事録送付時に次開催日を知らせる等工夫をして2ヶ月に一度定期的に開催している。高齢者福祉課・地域包括・地域社協の職員、他事業所管理者、学童保育管理者、家族や入居者が参加し、毎回活発な意見交換が行われ、運営推進会議を活かす取り組みが実践されていることが議事録から読み取れる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	12月の運営推進会議に佐倉市高齢者福祉課職員が参加。介護事故が発生した際は事故報告書を作成し随時報告している。毎月、高齢者福祉課に対し、入居状況を報告し連携を図っている。	地域包括支援センターとは毎回また、高齢者福祉課職員にも運営推進会議に出席いただき、取組状況を知って頂くとともに、様々な助言を頂いている。高齢者福祉課担当者には事故報告や入居状況なども報告し連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを心がけている。施錠しない方針ではあるが、安全面を考え、正面玄関は時間を決めて施錠。学童、ユニットの行き来は自由だがチャイム音で動きが把握出来るようになっている	毎年、身体拘束廃止・虐待防止研修を実施し、職員が身体拘束について正しく理解出来るようにしている。職員一人ひとりの意識向上を図るため、自己チェックリストを記入しスピーチロックも含め身体拘束をしないケアを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の場で虐待について学び、職員同士見過ごすことがないように注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者の方がおり、資料により職員の理解を促すようにしている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書、重要事項説明書、生活上のリスクをご家族と一つ一つ確認している		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時や運営推進会議等でご意見やご提案をご家族から頂いている。職員の顔写真をユニット内に掲示し分かりやすくした。請求書と同封する書類をご家族の希望に合わせて送るようにした。	今月のベストショットや個別援助表や職員紹介コーナー等工夫した「ぴあ通信 様便り」を毎月家族に送付し大変好評である。また、運営推進会議議事録を毎回送付し、家族にホームの運営状況なども詳しくお知らせしている。運営推進会議に出席する家族も多く、面会時に管理者以外の職員にも意見や要望を多く言っていただけるようになってきた。職員の顔と名前が分かるようにして欲しいなどの要望を運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と個別面談を実施している。会議等で職員の意見を話し合い、ケアに反映させている。ユニット掃除の掃き帚を購入。車のリースアップに伴い福祉車両に変更し、車椅子利用者の移動を簡易とした。	管理者は年2回職員と面談を行い、愚痴も含めて意見や要望を聞く機会としている。担当イベントを決め企画から実施まで任せる等職員の得意分野を活かすようにしている。法人の実施する外部講師を招いての研修に積極的に参加できるようにし受講アンケートを提出させ職員のスキルアップを図るとともに、運営推進会議に順次職員を参加させるなど、中堅職員育成にも力を入れている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課により自己評価、他己評価を行っている。代表者へ管理者から書面及び口頭にて職員の状況について報告している。職員メンタルヘルスチェックの実施。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内施設職員が参加する外部講師を招いた研修に職員参加を促した。組織力向上研修、ホスピタリティ向上研修、業務改善能力向上研修のそれぞれに職員が参加した。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設職員に運営推進会議への参加依頼を通じ、お互いに情報交換をする関係を構築している。今後は、職員交換研修や合同イベントなども検討していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前情報をもとに、日常生活の中で本人の希望を聞きとり、安心した生活が送れるように努めている</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>面会時、積極的に声をかけるようにし、事前の要望と本人の要望を擦り合わせしながらサービス提供に繋げている</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご家族と話し納得の上でサービス提供し、新しい問題点を話し合い、見極めを行いながら、次のサービスへ繋げている。訪問診療、訪問理美容、訪問マッサージを利用している方もいる。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>出来ることはなるべく自分で行ってもらい、出来ない事は一緒に行い、人として対等な関係性を築けるように努めている。洗濯物たたみ、配膳・下膳、料理の取り分け、食器洗い、食器拭きなどを職員と協力しながら行っている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者本人の事で一緒に悩み、解決の方向へ向けることが出来るよう、家族来訪時には積極的に話掛け関係作りに努めている</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>希望や本人の状態に応じて、家族へいつでもTELできる環境作りなど行っている。またご家族以外の面会希望の方にも制限せず面会していただいている。ポストカードを作り、ご家族あてに送付した。</p>	<p>入居時に馴染みの人や場所などの確認を行うようにしている。家族以外の面会も制限せず、遠くから親戚が訪ねてきたこともある。家族と馴染みの美容院や昼食、お墓参り、外泊をできるよう支援を行っている。ポストカードを作成し一筆書いて頂いて家族に送付したり、施設内に公衆電話を設置し希望や状態に応じていつでも電話できるようにしている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>それぞれの性格を把握し、状況に応じて橋渡しを行っている。また、個々で築いた関係性は大事にし、日常生活に活かしながら見守っている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ行かれた入居者の面会、また退所の際の写真データ作成など、関係が途切れないようにフォローしている。退所の際は介護サマリーを作成し、新しい環境に早く馴染めるように情報提供している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で聞き出し、本人の意向に沿えるよう検討しながらケアを行っている。	食後やお茶の時間など落ち着いた時を利用して、視線を合わせながら傾聴し、入居者の気持ちや思いの把握を心がけている。また、入居者の立場に立ち、行動障害の理由や背景を考えて接することも大切にしている。スタッフコーナーには入居者個々の「私の姿と気持ちシート」が置かれ、入居者の何気ない言葉や心身のわずかな変化などをその都度全職員が記入し思いや意向を把握するよう工夫している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報をもとに家族からも聞き取り日頃のケアにつなげている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人ケア記録を活用。個人に対する申し送りファイルを共有し現状を把握している		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を利用しながら、1人1人の職員の意見、アイデアを反映するようにしている。	アセスメントシートが添付されたモニタリング表を利用して全職員が3ヶ月毎に短期目標の達成度の評価を行っている。新たに追加されたケアプランは朱記することで、特に注意してモニタリングを行うように喚起している。また、食事・排泄記録や介助状況などの「個別援助表」や行事写真、入居者の様子などが記載された「びあ通信便り」を毎月家族へ送付することにより、ケアプラン作成時に家族が意見を出しやすくしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の入力や排泄チェック表等で情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りニーズに応えている。その場、その時、臨機応変に対応出来るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや、学童の子供達との触れ合いなどの支援をしている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の望むかかりつけ医に受診してもらっている。訪問診療を利用している方もいる。	ほとんどの入居者は、希望するかかりつけ医へ受診している。家族が付き添い必要時には職員の同行もある。受診時にはバイタル表や睡眠・排便の状態、緩下剤や眠剤などの処方依頼などを家族に伝え、適切な受診ができるように支援している。受診後は家族から薬の変更や塗り薬の処置などの受診情報を聞き取り、「入居者申し送り事項」に記入し職員間の情報共有を図っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は居ないため、日々の様子を観察、記録に残し訪問診療、外部受診に繋げている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、見舞い、面会に行き状況を把握。家族と話し合いながら、早期退院に努めている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態を把握し、検討した上で、ご家族との相談、話し合いをし他の施設等へスムーズに転居出来るよう努めている	契約時に、重度化した場合の緊急対応や事業所で受け入れ可能な範囲を具体的に説明し理解を図っている。入院時には職員が同行し、医療情報の共有や面会などの対応を行っている。また、退院までの一定期間の居室の確保など、入居者の立場に立った支援に努めている。重度化し、他の施設への転居が必要になった際には、家族と相談し、介護情報の提供や「生活介護サマリー」などを準備するなど円滑な転居につながる配慮が行われている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを用意している。リーダー以上が不在の時は電話連絡する体制が取れており、必要に応じ駆けつけている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災倉庫に3日分の食材を確保している。山万グループとして、ユウカリが丘駅前に対策本部が立ち上がり、グループ施設の当苑に対する支援体制が迅速に出来る体制が出来ている。	初期消火・通報・誘導などの役割を職員が分担し年2回の避難訓練を実施している。利用者には不安を与えずに確実に誘導することや車いすの利用などを想定した訓練が行われている。平屋であり玄関やウッドデッキ、非常口など、入居者を安全に誘導できる複数の避難経路が確保されている。町内会の防災倉庫利用や法人敷地内の防災井戸の利用など、町内会との相互協力体制について運営推進会議で話し合われている。	夜間火災想定時の2ユニットの夜勤者の役割分担を明確にし、夜勤者による実践的な訓練の実施が望まれる。訓練後に課題や問題点を職員間で話し合い、「実施報告書」を作成する等の取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者の人格を尊重し接している。利用者の居室に入室の際はロックをするように心掛けている。利用者尊厳に関する勉強会を行い、高齢者に対する倫理観を確認した。	入居者に「居心地が良い」と感じてもらえるために、常に寄り添う気持ちを忘れないように接している。毎日の活動予定をあまり決めずに、休息したい方はソファで横になり、読書を楽しみたい方は居室で机に向かうなど入居者の希望に合わせて無理強いをしない支援を心がけている。接遇や言葉使いなどの外部研修やプライバシー社内研修など職員のレベルに合わせた研修を実施している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来るような言葉掛けをしている。他者の前で話せないような事は、個人で話を聞いたりして意志表示出来るよう働きかけている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールをあえて決めずに、本人のペースで生活出来るようにしている。家政行為への参加やレク参加を本人の希望で参加して頂いている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本は利用者本人に任せるが、整髪、髭剃りなど身だしなみの声掛けはしている。行事外出する際はお化粧品をして参加している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付け等をやって頂いたり、毎日の献立を書いてもらいユニット内に掲示するようしている。ガーデンで取れた野菜を食べたり、自分達で掘ったサツマイモを食べる事もある。	野菜切りや食事の前のテーブル拭き、配膳、下膳、皿洗いなど自分のできることを手伝っている。入居者が各人のマイ茶碗、マイ箸を間違えずに配膳している。また、ホットプレートを使ったお好み焼きやどら焼きなどのおやつ作りにも参加している。正月の雑煮や節句ごとの行事食、和風レストラン、道の駅での外食を楽しみ、畑での芋ほりや流しそうめん、スイカ割りなど季節にあわせた食事イベントも行われている。入居者がメニューを決め、食材の買い物や調理などに参加できる調理レクレーションを計画中である。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎日全員チェックしている。通常の食事が摂れていない方には補食を提供している。ミキサーやブレンダーを使い、利用者の咀嚼嚥下能力に応じた食事を提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、介助が必要な利用者には職員が介助し口腔ケアを行っている。訪問歯科による定期的なチェックを受けている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し誘導、サインを見逃さないよう努めている。テープ式オムツを使用している方は居ない。	車いす対応を含めて3ヵ所のトイレには、移動や座位保持用の手すりが適切な位置に取り付けられ安全性を確保している。PC内の排泄表で職員は一人ひとりの排泄タイミングを把握し、スムーズなトイレ誘導が行われ、オムツ使用ゼロにつながっている。失禁の心配のある入居者には羞恥心にも配慮し失敗の無いように声かけや誘導に特に配慮している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調整をDrと相談しながら行っている。また日々の生活で水分不足にならないように声掛けしている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴介助は個々に合わせ行っているが、入浴時間については利用者全員の安全が確保できる時間帯、人員配置の時にしている。季節に応じ、しょうぶ湯やゆず湯を行っている。	湯冷めのしないやわらかい湯質の準天然光明石温泉での入浴を楽しんでいる。浴槽を跨ぐ際はバスボードなどを利用した安全な移乗介助を徹底している。また転倒や立ち座りがしづらい入居者にはシャワーチェアを使用して清潔を保っている。各ユニットで午前、午後の入浴時間帯を決め、介助職員が足りない場合はお互いの職員が調整して入浴支援に努めている。入浴を拒否する入居者にはまず足浴や清拭を試み、恐怖心を取り除き気持ちのゆとりがでるまで待って入浴を勧めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠、入眠出来るような雰囲気作りは心掛けている。個々の状態により夜間バット交換を行っている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれに合わせた服薬方法で服用している。処方箋ファイルがあり、職員全員がすぐ参照、確認することが出来る		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	週2回のカラオケ、グランドゴルフ、館内でのゲーム、アニマルセラピーなどを提供している。家政行為が好きな方には積極的に家政行為を手伝って頂き、玄関前の鉢植えを育てる事を日課にしている方も居る。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設前のケアガーデンに週4～5回程度散歩に出かけている。また、買い物や、外出イベントなど利用者の方に楽しんで頂けるように支援している。	天気の良い日は法人施設内のケアガーデンで森林浴を楽しみながらの散歩や散策が週3～4回行われている。季節の花の栽培、畑の芋ほりやヤギなどの小動物と遊ぶなど、気分転換につながる取り組みがみられる。地域の敬老会や小学校の運動会などにも積極的に参加している。外出イベントの担当職員を決め、季節ごとにチューリップ畑やお花見ドライブ、くさぶえの丘見学など多くの外出行事を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で現金を所持している利用者がおらず、全て事務所で管理している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ポストカードを作成し、ご家族宛に送付した。建物内に公衆電話を設置し、いつでも電話出来る体制を整えている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに写真を掲示することで家族に様子が分かるようにしている。掲示物は利用者の方にも作品作りに参加してもらうようにしている。冬場は床暖房を有効活用し、エアコンを使い過ぎて館内が乾燥しないよう心掛け、加湿器も設置する。	床暖房のリビングには天井からの優しい陽射しが差し込み、建物の前面に広がるケアガーデンの緑が開放的で明るい雰囲気を感じさせる。ゆったりしたソファやタミの休息台が置かれ、入居者同士が思い思いに会話をしながら時間を過ごすように配慮している。ウッドデッキのプランタの葉牡丹に入居者が水やりをして季節感を味わっている。併設の学童保育所からは子どもたちの元気な声が聞こえてくる。入居者と児童がハロウインの仮装やクリスマス会、卒業式などのイベントで世代を超えて触れ合っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの位置を工夫したり、時には席を変えてみたりと、なるべく穏やかに生活してもらえるように配慮している		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品をお持ち頂き、居心地良く過ごせるように工夫している。入所時だけでなく入所後も、ご本人が使い慣れた家具や小物を必要に応じて持ってきてもらえるように努めている。	音楽が好きな入居者はCDラジカセを家族の協力で持ち込んでいる。また、使い慣れた家具や遺影、家族の写真などこれまでの生活につながる物が自由に持ち込まれている。目標をもって生活できるように、掃除や食事の「お手伝いの週間予定」を入居者自身が作成し壁に掲示している。居室の掃除はできる限り入居者本人が行うように自立に向けた支援を図っている。転倒防止のためにつかまりやすい位置に長テーブルを配置するなど安全面の支援を行い、エアコンの温度調整などによる健康管理にも注意を払っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	張り紙などで場所を示したり、手摺の代わりにテーブルを利用したり、出来るだけ自立した生活を送れるように工夫している		